

日本の海事工学に関する博物館について（その1） ： 北海道編

著者	庄司 邦昭
雑誌名	東京商船大学研究報告. 人文科学
巻	47
ページ	15-31
発行年	1997
URL	http://id.nii.ac.jp/1342/00000572/

日本の海事工学に関する博物館について(その1)

—北海道編—

庄 司 邦 昭

On the Museums on Marine Engineering in Japan (Part 1)

—Hokkaido—

Kuniaki Shoji

Abstract

It is important issue to research on the museums by collecting data about marine engineering. Author researched data of foreign countries from 1989 to 1996 and those are already reported. In this paper author collected the museums which concerned marine engineering in Hokkaido area in Japan.

1. 緒言

世界各地に保存されている船舶関係資料について実態を調査することは、海事工学の発展にとって重要なことであると考えられる。

著者は以前に1989年から1996年にわたり、諸外国における調査結果を文献調査と現地調査によって纏めてきた^{(1)~(7)}。今回から日本における船舶関係資料について調査を行うことにする。本報告はその第1報として北海道地方における、海事資料について調査したので以下に報告する。

2. 現地調査結果

本報告では、北海道地方の6施設について現地調査をしたので、その結果を以下に示す。

(1)開陽丸

『開陽丸』は3本マストシップ型補助エンジン付帆船で排水量2590トン、全長72.80m(バウスプリットまで含めると81.20m)、全幅13.04m、船首喫水5.70m、船尾喫水6.40m、帆面積2097.8m²であった。補助エンジンは400馬力の蒸気往復動機関1基を備え、機走により10ノットの速力が出た。J.W.L. ファンオールトの設計により、ドルドレヒト市ウィレンヘンボスのヒップスエンゾーネン造船所で建造された。

『開陽丸』の建造に関係する幕府の留学生一行を乗せた約200トンのオランダ帆船『カリップス』は1862年11月2日(文久2年9月11日)12時45分に長崎を出港した、機関学の榎本釜次郎、造船学の赤松大三郎、造船技術の上田寅吉、航海技術の古川庄八と山下岩吉など15名の留学生が乗船した。ジャワのガスパル海峡バンカ島沖で暗礁に乗り揚げたため船をおり、その後1862年12月22日(文久2年9月11日)にオランダ船『テルナーテ』でバタビアを出港し、1863年6月2日(文久3年4月16日)午後8時、オランダのプロウウェルスハーフェンへ到着した。留学生一行は6月4日(4月18日)の夕刻にロッテルダムにおいてヨーロッパ上陸の第一歩を印した。

『開陽丸』の建造は、まずアムステルダムのオランダ貿易会社の本社においてヒップスエンゾーネン造船所との契約、キール据え付け、釘打ち式と進み、その間に赤松大三郎はハーグから造船所のあるドルドレヒトのムント街95番地へ下宿を移した。1864年11月19日(元治元年10月20日)に命名式が催され日本名『開陽丸』、オランダ名『Voorlichter』という名前が示された。1865年11月2日(慶応元年9月10日)午後4時過ぎに進水式が行われ、1866年5月31日(慶応2年4月17日)にビレムスドルブでスクリューが装着された。10月23日に試運転が行われた

後、1866年12月1日(慶応2年10月25日)午前8時にディノー艦長のもと留学生一行を乗せオランダのフリッシンゲンを出港した。そして1867年4月30日(慶応3年3月26日)午前10時30分横浜に入港し、1867年6月22日(慶応3年5月20日)に江戸幕府へ引き渡された。

やがて明治政府への引渡しを拒んだ榎本釜次郎は『開陽丸』をはじめとする幕府の艦隊をひきいて慶応4年8月19日に品川沖を出港し北へ向かった。

『開陽丸』は現在は森町となった鷺の木に到着し、その後函館、松前へ移動し、1868年12月28日(明治元年11月15日)に江差に到着したが、そこで座礁し、約10日後に沈没した。

『開陽丸』が沈没した付近の海面上に原寸大の鉄筋コンクリート製の『開陽丸』が建設された。船内の砲甲板には「開陽丸の一生」と「開陽丸の構造と機能」についての展示、居住甲板には「開陽丸の乗組員」、「海中遺跡と水中考古学」、「操船シミュレーション」のコーナーがある。大砲から日用品まで様々な海底からの引き揚げ品がこの施設においてみることができる。

管理棟には開陽丸だけでなく北前船に関する資料もあるが、北前船に関する資料は旧中村家住宅や江差町郷土資料館などにもその展示が見られる。

〈データ〉

名 称：青少年研修施設開陽丸

所 在 地：043 檜山郡江差町字姥神町1-10

電 話：01395-2-5522

F A X：01395-2-5505

交 通：国鉄江差線「江差」下車，駅前から函館バス江差南高校行きで6分，中歌町下車徒歩7分，江差駅から徒歩20分

所 属：財団法人開陽丸青少年センター

開 設：1990年4月

開館時間：8時30分～17時

休 館 日：無休(4月～10月)，月曜日・祝日の翌日(11月～3月)

入 館 料：大人700円，小人300人

写真撮影：可

出 版 物：○無料パンフレット

○開陽丸，財団法人開陽丸青少年センター(1990年4月15日発行)

展 示：〈開陽丸引き揚げ品〉

○スクリューシャフト，○機関部品，○投光器

○工具類

ボックスレンチ，ハンマー，かんな，ユーフル，ナタ，斧，

やっここ，ノミ，スパナ，とんかち，やすり，ロート

○タラップ

○ビレーピン

○双眼鏡，○望遠鏡，○櫓，○滑車，真ちゅう滑車，○バルブコック，

○投光器，○ロープ類

○その他，「開陽丸」模型など

参考文献：○網淵謙錠：航一榎本武揚と軍艦開陽丸の生涯，新潮社(1986年4月15日発行)

○高橋昭夫：夜明けの戦艦—開陽丸物語—，北海道新聞社(1991年5月15日発行)

○柏倉清：軍艦開陽丸—江差への航跡—，教育書籍(1990年3月20日発行)

○脇哲：軍艦開陽丸物語，新人物往来社(1990年4月10日第1刷発行)

(1991年10月5日(土)現在)



写真1 開陽丸



写真2 引き揚げられた開陽丸のプロペラシャフト

(2)旧中村家住宅

旧中村家住宅は近江出身の呉服商人の大橋宇兵衛が建てたもので、檜を主材料に、土台には北前船の笏谷石(現福井市上加茂河原町)を積み上げ、瓦は若狭国遠敷郡中井村(現福井県小浜市中井町)で生産されたものを使用している。道路に面した切妻造りの母屋から、浜の方へ文庫倉、下ノ倉、ハネダシと続くトオリニワ様式で、当時の問屋建築の代表的な造りになっている。母屋と文庫倉は建築様式や諸文献から明治22年頃、下ノ倉は和釘の使用と様式から幕末頃に建てられたものと考えられる。

鯨漁が下火になった大正4年に大橋家は同郷出身でこの店の支配人をしていた中村米吉に敷地と建物を譲渡した。昭和46年に重要文化財の指定を受け、昭和49年に中村家から江差町に寄贈された。昭和57年に修復が完成し一般公開が始められた。

建物の中には、弁財船資料や漁船の資料が展示されているが、ハネダシのそばまで北前船やはしけが寄ってきて荷役をするように造られた建物そのものも貴重な海事資料である。

〈データ〉

住 所：043 檜山郡江差町字中歌町22番地

電 話：01395-2-1617

交 通：江差駅より徒歩20分，または函館バスにて中歌町下車，徒歩1分

開 設：1982年(昭和57年)

開館時間：9時～17時

休 館 日：月曜日，祝日の翌日，年末年始

入 館 料：大人200円，小人100人

写真撮影：可

展 示：○弁財船の碇(津花町竹内氏寄贈)，○ゴザ帆，○漁船模型，

○弁財船資料，漁業資料

(1991年10月5日(土曜日)現在)



写真3 旧中村家住宅



写真4 漁船模型

(3) 北海道大学水産学部水産資料館

北海道大学水産学部は1907年(明治40年)2月に札幌農学校水産学科として誕生した。1957年(昭和32年)の創立50周年に、北海道大学水産学部創基五十周年記念協賛会が関係法人、企業、教職員、同窓会員から募金を得て建設したのが「北海道大学水産学部水産資料館」である。一部鉄筋のブロック造り二階建てで、床面積121坪、総工費は600万円、1957年12月25日に竣工した。その後、創立75周年を記念して1982年(昭和57年)に別館が完成し現在に至っている。

資料館には魚類などの静物の標本や、水産加工品そして和船の模型が展示されている。この和船模型は、1908年(明治41年)8月に開かれた北海道水産共進会に出品されていた和船模型22点(24隻)を東北帝国大学農科大学水産学科が買い取ったことによる。その後、第二次大戦終了まで函館水産専門学校標本室に陳列されていた。戦後に校舎が接收されるなどして模型船は移転をくりかえしたが、その際に当初添付されていた模型の説明書が紛失してしまったそうである。

また弁財船模型は1954年(昭和29年)に函館で開かれた北洋博覧会において福島町教育委員会から出品されたもので、博覧会終了後に寄贈を受けた。

資料館内は豊富な展示資料によるためか、模型船がおかれた通路は狭く、目と展示物との距離が近すぎてしまう。もっとゆったりと置かれていれば模型船も生きてくるのではないだろうか。

〈データ〉

名 称：北海道大学水産学部水産資料館

所 在 地：040 北海道函館市港町3-1-1 北海道大学水産学部内

電 話：0138-41-0131

交 通：函館駅より上磯方面行バス15分、北大前下車、

所 属：北海道大学水産学部

開 設：1958年(昭和33年)

開館時間：9時～16時

休 館 日：土・日曜日、祝日、12月28日～1月5日

入 館 料：無料

写真撮影：可

出 版 物：○上野元一・久新健一郎・中村秀男・稲葉恭人：『北海道大学水産学部水産資料館所蔵和船模型目録』、北海道大学水産学部水産資料館資料第10号(1969年1月)

展 示： [模型船(館内)]

○打瀬網漁船，○揚操船(2隻)，○いわし揚操船(2隻)(銚子地方)，○かつお釣り漁船，○五反型釣漁船(まぐろ延縄船。「やんの」ともいう。千葉・神奈川・伊豆地方)，○にしん枿船(汲船にも使う。小樽市渡辺 兵四郎氏出品)，○にしん起船(保津船，汲船にも使う。小樽市渡辺兵四郎氏出品)，○竹筏，○揚操網漁船，○揚操網漁船(銚子地方)，○関東州型漁船，○支那型漁船，○延縄漁船，○釣漁船(てんと船ともいう。神奈川県地方)，○伝馬船，○釣漁船(いか釣りにも使用。能登地方)，○さけ巾着網漁船(岩手県宮古町岩船豊吉氏出品)，○二そう旋網漁船(2隻)(三半船(三羽船)ともいう。定置網にも使用。北海道地方)，○韓海採鮑船(運搬船にも使用。愛媛県西宇和郡三崎村丸一組出品)，○弁財船(松前郡福島町日向の花田民蔵氏製作)，○底曳網漁船『第一福恵丸』，○捕鯨船，○以東底曳網漁船『第三十二大黒丸』，○以西底曳網漁船，○『忍路丸(おしよるまる)』I世(1909年(明治42年)東北帝国大学水産学部練習船として三重県大湊の市川造船所で建造。ブリガンティン型純帆船，153総トン。1916年(大正7年)北海道大学水産専門部に移籍。1927年(昭和2年)II世忍路丸の進水により日本海洋少年団に移籍)，○『忍路丸』II世，○『忍路丸』III世，○『忍路丸』IV世

[館外]

○カッター1号

1941年(昭和16年)建造以来，1983年(昭和58年)現役を退くまでの40年余りの間，函館高等学校，函館専門学校，北海道大学水産学部の学生 約2100名を育てた。

○『忍路丸』III世(1962-1983)の予備錨重量1.3ton，国鉄型錨。

参考文献：○北海道の博物館編集委員会編：『ガイドブック北海道の博物館』，北海道大学図書刊行会，p.79(1979年7月25日第1刷)

○ブルーボックス編集部編：『全国科学・博物館ガイド』，講談社ブルーボックスB572，p.43(1984年6月20日第1刷発行)

○吉羽和夫：『続・科学の散歩道』，共立出版 共立科学ブックス43，pp.101(1979年12月20日初版1刷発行)

(1991年10月4日(金)現在)



写真5 北海道大学水産学部水産資料館

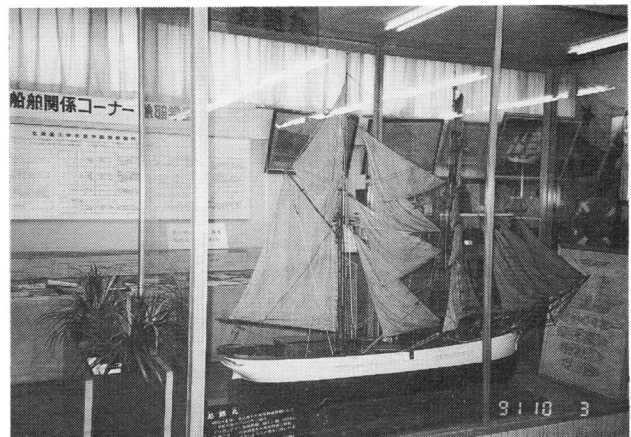


写真6 忍路丸I世模型

(4) 室蘭市青少年科学館

室蘭市青少年科学館は青少年科学館として北海道内で初めての施設である。各コーナーには1000点に及ぶ各種の科学資料が展示されている。またプラネタリウムや熱帯植物の温室もつくられている。このなかの石油や海洋開発に関する部門に模型船が展示されている。

〈データ〉

住 所：051 室蘭市本町2-2-1

電 話：0143-22-1058

交 通：国鉄室蘭駅より徒歩10分

開 設：1963年(昭和38年)4月1日

開館時間：9時～17時

入館時間：16時30分まで

休 館 日：月曜日、祝日の翌日、年末年始

入 館 料：大人250円、小中学生60円

写真撮影：可

展 示：○「Naess Champion」1/150模型

1962年7月3日建造，アングロアメリカン海運所有，全長265.350m，

型幅37.00m，型深さ19.50m，88497DWT，54748.750総トン，

貨物油槽容積120612kl，主機24420軸馬力，試運転最高速度17.33ノット，ロイズ船級協会

○石油掘削装置「第2白龍」模型

長さ84m，幅61m，高さ31m，掘削能力9000m

○海洋底曳網漁船「第八翹洋丸」1/75模型

1983年(昭和58年)1月22日竣工，全長51.00m，型幅9.60m，

型深さ6.15m，279.0総トン，航海速度15.0ノット，試運転最大速度17.5ノット

(1993年5月25日(火曜日)現在)



写真7 室蘭市青少年科学館

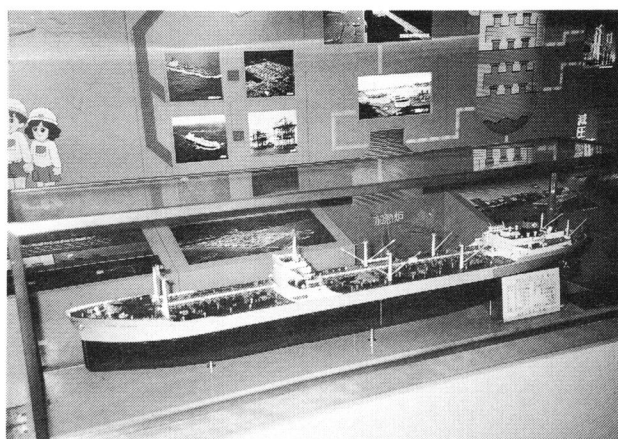


写真8 タンカー「ネエイエスチャンピオン」模型

(5) メモリアルシップ摩周丸(青函連絡船歴史展示館)

青函連絡船はもうなくなってしまったが、函館はまだ北海道の玄関口という感じがする。青森からのフェリーは来るし、津軽海峡トンネルを通った快速電車も青森駅から約2時間分かけて函館駅に到着する。

函館駅に続く青函連絡船棧橋の跡地は「函館シーポートプラザ」というショッピング街とレストラン街になっていて、函館駅のホームから直接に専用通路で行くことができる。棧橋にはかつての青函連絡船『摩周丸』が船の展示館として開館した。

摩周丸の中につくられた青函連絡船歴史展示館は、連絡船の精巧な模型、船長の制服や制帽、ドラ、号鐘、航海日誌、羅針盤、第2次大戦前に使われていた曳航測程儀など青函航路80年の歴史を示す資料がみられる。

少し先へ行くと1911年(明治44年)に建築された函館郵便局を改装した「ユニオンスクエア明治館」がある。1階はショッピング街、2階は「函館オルゴール明治館」である。その隣りは日本郵船のレンガ造り倉庫を年に改装した「BAYはこだて」で、ここもレストランとショッピング街などがある。その隣りが金森倉庫群で、6棟ある中の西側の3棟が「函館ヒストリープラザ」として、ピヤホール、多目的ホール、ショッピング街、展示ホールに活用されている。

〈データ〉

住 所：040 函館市若松町12-13 JR 函館支社内

電 話：0138-27-2100

ファクシミリ：0138-27-2101

交 通：函館駅

開館時間：8時～17時(4月20日～6月30日、9月1日～10月31日)

8時～18時(7月1日～8月31日)、9時～17時(11月1日～4月19日)

休 館 日：無休

入 館 料：大人500円、中高校生400円、小学生300円

写真撮影：可

展 示：○「摩周丸」模型

○「十和田丸」1/100模型

新三菱重工神戸造船所建造、1957年～1966年就航、6148.59GT、全長120.00m

○「八甲田丸」1/100模型

三菱重工神戸造船所建造、1964年～1988年就航、5383GT、全長132.00m、

金沢市植木昭二氏製作

○「十和田丸(第2代)」1/100模型

浦賀造船所建造、1966年～1988年就航、5397.59GT

○「津軽丸」1/100模型

○「羊蹄丸(第2代)」模型

○「檜山丸(第2代)」模型

○「摩周丸」プロペラ

○「摩周丸」アンカーチェーン

○船首部構造模型、船尾部構造模型

○航海用具

マグネットコンパス、方位環、コンパス拡大鏡、手用測鉛、

電磁ログ測定桿，曳航測程儀

○工具

チップングハンマー，テストハンマー，マレット，スパイキ，スクレッパー，竹針，パーム

○船舶製造番号プレート(羊蹄丸，第2代)

(1993年11月9日(火曜日)現在)



写真9 メモリアルシップ摩周丸



写真10 船首部船尾部構造模型

(6) 函館市北洋資料館

函館市北洋資料館は北洋漁業の船を集めた興味深い博物館である。しかし写真撮影禁止になっているのが残念である。

〈データ〉

住 所：040 函館市五稜郭町37-8

電 話：0138-55-3455

交 通：函館駅より市電五稜郭公園前下車，徒歩10分

開 設：1983年(昭和57年)9月

開館時間：9時～16時30分(10月～3月は16時まで)

休 館 日：月曜日，祝日，月末日，7月1日，年末年始

入 館 料：大人100円，小人50人

写真撮影：不可

展 示：○「辰悦丸」模型

1796年(寛政8年)頃，高田屋嘉兵衛によって建造された帆船(1500石積み)。当時の和船技術では最大級といわれた。

○「洋光丸」模型(1/50)

蟹工船。1921年建造，5764トン(昭和34年)，発動機レシプロ3000馬力。最大速力10ノット，全長121.9m，全幅15.85m，深さ9.45m，1964年(昭和39年)廃船。

○350トン型遠洋底曳き網漁船模型(通称北転船)

北海道東北を根拠に北洋へ出漁して，周年操業するオッターロール方式の底曳き網漁船。1960年(昭和35年)，北日本の沖合い底曳き網漁船の北洋への転換が図られ，翌年に水産庁の船員設備改善措置に伴い各方面で建造された。

- 「宝寿丸」模型
 - 二そう旋網漁船(川崎型三半船)
 - ニシン榨船(わくぶね)
 - サケ巾着網船(きんちゃくあみぶね)
 - 「呉羽丸」模型
 - 「仁洋丸」模型
 - 北洋サケマス母船(1/200)
 - 「第八啓洋丸」(1/25模型)
 - 航海計器
 - 北方アリユートの3人乗りの皮船(ヴィ
ダルカ)複製
- (1991年10月4日(金曜日)現在)



写真11 函館市北洋資料館

3. 文献調査結果

参考文献⁽⁸⁾⁻⁽¹⁵⁾によって船舶関係資料をもつ博物館について調査した。その結果を以下に示す。

○旭川市青少年科学館

住 所：070 旭川市常磐公園

電 話：0166-22-4171

交 通：函館本線旭川駅よりバス，常磐公園前下車徒歩3分

開館時間：10時～16時30分

休 館 日：月曜日(祝日の場合火曜日)，毎月末日，12月29日～1月5日，祝日(こどもの日を除く)

入 館 料：大人100円，小中高生50円

展 示：貨物船模型

○虻田町立郷土資料館

住 所：04957 虻田郡虻田町字洞爺湖温泉町

電 話：01427-5-2281

交 通：室蘭本線洞爺駅より洞爺湖温泉行バス，終点下車徒歩5分

開館時間：10時～16時

休 館 日：4月1日～11月上旬は無休

入 館 料：有料

展 示：漁業用具

○岩内町郷土館

住 所：045 岩内郡岩内町字清住5-3

電 話：0135-62-3125

交 通：岩内線郡岩内駅より徒歩15分

開 設：1971年(昭和46年)5月

開館時間：9時～17時

休 館 日：月曜日，祝日，12月31日～1月5日

入 館 料：大人100円，小人50円

展 示：ニシン漁業関係資料，弁財船模型

○江差町郷土資料館

住 所：043 檜山郡江差町字本町271

電 話：01395-2-1059

交 通：江差線江差駅より徒歩15分

開館時間：9時～17時

休 館 日：月曜日，祝日の翌日，12月31日～1月5日

入 館 料：大人200円，小中学生100円

展 示：開陽丸資料，鯨漁資料

○小樽市青少年科学技術館

住 所：047 小樽市緑1-9-1

電 話：0134-22-0031

交 通：国鉄小樽駅より徒歩10分

開 設：1963年(昭和38年)8月2日

開館時間：9時30分～16時

休 館 日：月曜日，祝日，12月29日～1月3日

入 館 料：大人100円，小中学生50円

展 示：船舶，海洋開発のコーナー

○小樽市博物館

住 所：047 小樽市色内2-1-20

電 話：0134-33-2439

交 通：国鉄小樽駅より徒歩15分

開 設：1956年(昭和31年)6月

開館時間：9時30分～17時

休 館 日：月曜日，祝日の翌日(土日を除く)，12月29日～1月3日

入 館 料：大人100円，小人50円

展 示：辰悦丸模型，白山丸模型，航海用具，鯨漁資料

○小樽市鯨御殿

住 所：047 小樽市祝津3-228

電 話：0134-22-1038

交 通：国鉄小樽駅よりバス，小樽水族館前下車徒歩5分

開 設：1959年(昭和34年)4月

開館時間：9時～17時

休 館 日：11月4日～4月第3土曜日，その他の日は無休

入 館 料：大人200円，小人100円

展 示：鯨保津船模型，漁徳丸模型，弁財船模型，鯨起船模型，大錨，四つ爪錨

◎開陽丸

現地調査結果参照

住 所：043 檜山郡江差町字姥神町1-10

電 話：01395-2-5522

交 通：江差線江差駅より徒歩15分
開 設：1990年(平成2年)4月18日
開館時間：8時30分～17時
休 館 日：無休(4月～10月), 月曜日・祝日の翌日(11月～3月)
入 館 料：大人700円, 小中高校生300円
展 示：開陽丸に関する資料

◎旧中村家住宅

現地調査結果参照
住 所：043 檜山郡江差町字中歌町22番地
電 話：01395-2-1617
交 通：江差駅より徒歩20分, または函館バスにて中歌町下車, 徒歩1分
開 設：
開館時間：9時～17時
休 館 日：月曜日, 祝日の翌日, 年末年始
入 館 料：大人200円, 小人100円
展 示：弁財船資料, 漁業資料

○戸井町郷土館

住 所：04103 亀田郡戸井町字浜町290
電 話：013882-2273
交 通：函館本線函館駅より函館バス下海岸線戸井下町下車, 徒歩5分
開館時間：8時30分～17時(夏季), 9時～16時30分(冬季)
休 館 日：月曜日, 祝日, 年末年始
入 館 料：無料
展 示：水産業に関する資料

○苫小牧市博物館

住 所：053 苫小牧市末広町3-9-7
電 話：0144-35-2550
交 通：室蘭本線苫小牧駅より市営バス7分, 博物館通り下車徒歩3分
開 設：1985年(昭和60年)11月3日
開館時間：9時30分～17時
休 館 日：月曜日, 祝日(こどもの日, 文化の日は除く),
12月30日～1月6日
入 館 料：大人300円, 高校生200円, 小中学生100円
展 示：苫小牧市沼の端で出土したアイヌの丸木舟4隻(板綴舟2隻を含む),
推進具類

○二風谷アイヌ文化資料館

住 所：05501 沙流郡平取町二風谷
電 話：01457-2-2892
交 通：日高本線富川駅より日高行バス, 資料館前下車
開館時間：9時～13時

休館日：無休
入館料：有料
展 示：アイヌの舟

○函館市立博物館

住 所：函館市青柳町17-1
電 話：0138-23-5480
交 通：函館駅より市電青柳町下車，徒歩7分
開 設：明治12年5月
開館時間：9時～16時30分(4月～10月)，9時～16時(11月～3月)
休館日：月曜日，祝日，毎月最終金曜日，10月中2週間(資料虫干し期間)
12月30日～1月6日
入館料：大人100円，学生50円
展 示：コディアックアリュートの3人乗りの皮船(ヴィダルカ)

◎函館市北洋資料館

現地調査結果参照

住 所：040 函館市五稜郭町37-8
電 話：0138-55-3455
交 通：函館駅より市電五稜郭公園前下車，徒歩10分
開 設：1983年(昭和57年)9月16日
開館時間：9時～19時(11月～3月は17時まで)
休館日：12月31日～1月3日
入館料：大人100円，小人50円
展 示：高田屋嘉兵衛の辰悦丸模型，漁船の変遷模型，北方アリュートの3人乗りの皮船(ヴィダルカ)，蟹工船模型

○浜益村郷土資料館

住 所：07314 浜益郡浜益村大字浜益8-5
電 話：013379-2402
交 通：札幌駅より中央バス札幌ターミナルから浜益行，浜益下車徒歩20分
開 設：1971年(昭和46年)
開館時間：10時～16時
休館日：月曜日，12月28日～1月4日
入館料：大人100円，小人30円
展 示：かつての漁船の模型，ニシン漁船

○北海道開拓記念館

住 所：004 札幌市白石区厚別町小野幌53-2
電 話：011-898-0456～0459
交 通：函館本線森林公園駅より開拓の村行バス，記念館入口下車，
千歳線新さっぽろ駅より開拓の村行バス，記念館入口下車，
地下鉄東西線新さっぽろ駅より開拓の村行バス，記念館入口下車
開 設：1971年4月

開館時間：9時30分～16時30分

入館時間：16時まで

休館日：月曜日、祝日(憲法記念日、こどもの日、敬老の日、秋分の日、文化の日を除く)、
12月26日～1月4日

入館料：大人250円、高校大学生80円、小中学生50円

展示：船だんす、北前船の模型(長者丸)

◎北海道大学水産学部水産資料館

現地調査結果参照

住所：041 函館市港町3-1-1 北海道大学水産学部内

電話：0138-41-0131

交通：函館駅より上磯方面行バス15分、北大前下車

開設：1958年(昭和33年)

開館時間：9時～16時

休館日：日曜日、祝日、12月28日～1月5日

入館料：無料

展示：漁船模型

○北海道大学農学部附属博物館

住所：060 札幌市中央区北3条西8丁目 北大植物園内

電話：011-251-8010

交通：函館本線札幌駅より徒歩15分

開設：明治17年

開館時間：9時～16時(4月29日～9月30日)、
9時～15時30分(10月1日～11月3日)

休館日：月曜日、11月4日～4月28日

入館料：大人400円、小中学生280円

展示：アイヌの丸木舟

○北海道立青函トンネル記念館

住所：04913 松前郡福島町字三岳32-3

電話：01394-7-3170,3171

交通：国鉄福島駅より徒歩10分、函館バス記念館前下車

開設：1973年(昭和48年)10月1日

開館時間：9時30分～16時

休館日：月曜日、祝日、12月30日～1月6日

入館料：大人150円、高大学生30円、小中学生20円

展示：千石船模型、青函連絡船関係資料

○北海道立北方民族博物館

住所：093 網走市字潮見313-1

電話：0152-45-3888

交通：国鉄石北本線網走駅より網走バス(季節運行)北方民族博物館前下車、
またはタクシーで約10分

開 設：1991年(平成3年)2月10日

開館時間：9時30分～16時30分

休 館 日：月曜日，2月11日・5月3日～5日・9月15日・23日・
10月10日・11月3日以外の祝日，12月29日～1月3日

入 館 料：大人250円，高大学生80円，小中学生50円

展 示：北方民族の船

○北方歴史資料館

住 所：040 函館市末広町23-2

電 話：0138-26-0111

交 通：国鉄函館駅より徒歩15分

開 設：1988年(昭和63年)3月5日

開館時間：9時30分～17時

休 館 日：12月27日～1月7日

入 館 料：大人500円，高大学生300円，小中学生200円

展 示：船舶航海関係資料

○松前城資料館

住 所：04915 松前郡松前町字松城144

電 話：01394-2-2216

交 通：津軽海峡線木古内駅よりバスで松城下車徒歩4分

開 設：1961年(昭和36年)4月

開館時間：9時～16時30分(4月10日～12月10日)

休 館 日：期間中無休，12月11日～4月9日

入 館 料：大人200円，小中学生100円

展 示：松前藩御用船長者丸関係資料

○松前町郷土資料館

住 所：04915 松前郡松前町字神明

電 話：01394-2-3060

交 通：津軽海峡線木古内駅よりバスで松城下車徒歩7分

開 設：1975年(昭和50年)

開館時間：9時～16時30分(4月10日～12月10日)

休 館 日：期間中無休，12月11日～4月9日

入 館 料：大人200円，小中学生100円

展 示：千石船の模型，北前船関係資料

◎室蘭市青少年科学館

現地調査結果参照

住 所：051 室蘭市本町2-2-1

電 話：0143-22-1058

交 通：国鉄室蘭駅より徒歩10分

開 設：1963年(昭和38年)4月1日

開館時間：9時～17時

入館時間：16時30分まで

休館日：月曜日，祝日の翌日，年末年始

入館料：大人250円，小中学生60円

展示：「Naess Champion」(1/150模型)

石油掘削装置「第2白龍」模型

海洋底曳網漁船「第八翹洋丸」1/75模型

◎メモリアルシップ摩周丸(青函連絡船歴史展示館)

現地調査結果参照

住所：040 函館市若松町12-13 JR 函館支社内

電話：0138-27-2100

ファクシミリ：0138-27-2101

交通：函館駅

開館時間：8時～17時(4月20日～6月30日，9月1日～10月31日)

8時～18時(7月1日～8月31日)，9時～17時(11月1日～4月19日)

休館日：無休

入館料：大人500円，中高校生400円，小学生300円

写真撮影：可

展示：青函連絡船模型

○余市水産博物館

住所：046 余市郡余市町入舟町21-8

電話：0135-22-6187

交通：函館本線余市駅より徒歩15分

開設：1969年(昭和44年)6月

開館時間：9時～16時30分

休館日：月曜日，祝日の翌日，年末年始

入館料：大人100円，小中学生50円

展示：ニシン漁撈関係資料

○利尻町立博物館

住所：09964 利尻郡利尻町仙法志字本町136

電話：01638-5-1411

交通：宗谷バス仙法志井田食堂前下車，徒歩10分

開館時間：9時～17時(5月1日～11月30日)

休館日：月曜日，祝日の翌日，12月1日～4月30日

入館料：有料

展示：川崎船，漁業資料

○利尻島郷土資料館

住所：097 利尻郡東利尻町鬼脇

電話：01638-3-1620

交通：鴛泊港よりバス45分，鬼脇下車，徒歩5分

開館時間：9時30分～16時

休館日：月曜日、祝日、12月28日～4月1日

入館料：有料

展示：ニシン漁撈を主とした漁業水産資料

○留萌市海のふるさと館

住所：077 留萌市大町2-3-1

電話：01644-3-6677

交通：鴛泊港よりバス45分、鬼脇下車、徒歩5分

開館時間：9時30分～16時

休館日：月曜日、祝日、12月28日～4月1日

入館料：有料

展示：ニシン漁撈を主とした漁業水産資料

○稚内市そうや竜ふるさと歴史館

住所：09867 稚内市宗谷村大岬

電話：0162-76-2466

交通：留萌駅より市内巡回バスで大町下車

開設：1989年(平成元年)6月10日

開館時間：10時～20時(4月～9月)、10時～17時(10月～3月)

休館日：4月～9月は無休、月曜日・祝日(10月～3月)、12月31日～1月5日

入館料：大人300円、高校生200円、小中学生100円

展示：ニシン漁の道具、船大工道具一式

4. まとめ

本報告では、北海道における6施設についての現地調査と24施設についての文献調査結果を示した。北海道には博物館の歴史に必ず登場する日本最初の地方博物館「市立函館博物館」など興味深い博物館は多い。しかし公立の博物館のいくつかは写真撮影禁止になっているのが残念である。写真撮影ができるかどうかは博物館が来館者をどのように考えているかを示す一つの指標として注目している。

参考文献

- (1) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について(その1)－西ドイツの博物館－，東京商船大学研究報告(人文科学)第40号，pp.83-99(1989年12月)
- (2) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について(その2)－西ドイツ(続)・オランダ・ベルギー－，東京商船大学研究報告(人文科学)第41号，pp.89-114(1990年12月)
- (3) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について(その3)－ノルウェー・スウェーデン・デンマーク－，東京商船大学研究報告(人文科学)第42号，pp.73-91(1991年12月)
- (4) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について(その4)－イギリス・フランス・イタリア・スロベニア－，東京商船大学研究報告(人文科学)第43号，pp.87-106(1992年12月)
- (5) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について(その5)－アメリカ－，東京商船大学研究報告(人文科学)第44号，pp.41-67(1993年12月)
- (6) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について(その6)－中国－，東京商船大学研究報告(人文科学)第45号，pp.13-19(1995年3月)

-
- (7) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について(その7)ーオーストラリア・ニュージーランドー，東京商船大学研究報告(人文科学)第46号，pp.1-26(1996年2月)
 - (8) 考古学ライブラリー編集部編：博物館資料館案内Ⅰー考古・歴史・民俗ー，ニューサイエンス社(1984年1月)
 - (9) 考古学ライブラリー編集部編：博物館資料館案内Ⅱー教育委員会・埋文センター・研究会一覧ー，ニューサイエンス社(1984年1月)
 - (10) 全国美術館会議編：全国美術館ガイド，美術出版社(1992年1月10日)
 - (11) 樋口秀雄・加藤有次監修：父と子の博物館，富士書店(1976年7月)
 - (12) 加藤有次監修：ユニーク博物館，毎日新聞社(1985年5月)
 - (13) 北海道博物館協会編：北海道博物館ガイド，北海道新聞社(1991年5月)
 - (14) 北海道社会教育協会監修，北海道の博物館編集委員会編：ガイドブック北海道の博物館，北海道大学図書刊行会(1979年7月)
 - (15) 日本博物館協会編集：全国博物館総覧，第1巻，ぎょうせい(1995年6月)